

第273回 令和8年7月16日（木）

「外国につながる子どもの支援について」

JICAが作成した動画にこのようなものがあります。ある日、海外のことばの通じない国に行って、学校生活を営む様子を当事者目線で体験します。まったくわからないことだらけです。

挨拶はなんとなくわかりますが、それ以降の会話はことばがまったくわかりません。もちろん教科書にも何が書いてあるかわかりませんし、先生の言っていることもわかりません。壁にある表示も想像で判断するしかない状態です。

動画を見るとことばが通じない環境で生活するというのがどれだけ不安かよくわかります。いま日本にいる外国につながる子どもたちの多くはこのような気持ちでいるのです。英語ならまだしも日本語というのは覚えるのがなかなか難しい言語だと思います。

高校に入学した外国につながるのある生徒は日本語が堪能な子どももいれば、まったく話せない子どももいます。しかし入学後は「ふりがな」つきのプリントや教科書で高校の勉強についていなくてははいけません。「ひらがな」ならわかるはずというのは不親切だと感じました。

そこでAIによる同時通訳システムを作ろうと、JICAにもオブザーバーで参加してもらい、神奈川工科大学の教授や神奈川県教育委員会、総合教育センターとタイアップしてプロジェクトチームを作りました。実証実験は二度ほど新聞に掲載されました。

現在は字幕翻訳レベルなら、かなりリアルタイムで可能になっています。私が望むのは字幕ではなく同時音声通訳です。字幕だとそれを目で追っている間に教師のパフォーマンスについていけなくなるからです。早い時期に実現してほしいと思います。

全国には8万5千人の日本語指導が必要な児童・生徒がいます。そのなかには学校に行けず、日本語指導を受けられていない子どももいます。治安悪化を理由に外国人を排斥する主張をする政党もありますが、まずは教育を最優先すべきではないかと思っています。

教育には時間もお金もかかります。そして成果に即効性があるわけではないので、現在の教育の成果が顕れるのは子どもが成長した10年後になってからです。逆にいうと今治安悪化等が課題になるのは10年前の教育システムに欠陥があったからではないかと思っています。

外国につながるのある子どもたちの学びに向かう意欲は素晴らしいものがありました。日本語を覚えることや知識を蓄えることが生きていくうえで本当に必須だからです。教育システムの整備を喫緊の課題として、早急に取り組むべきだと思っています。